

高等学校芸術科（美術）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
1	1	人物名	平山郁夫		2
		(1) 作風	仏教への関心が強く、題材として仏教画を取り上げることが多く、群青を主体の色調としてよく使った。また、シルクロードの西から東までの主要地域を描くなど、アジアを主題にした作品を多く残した。幻想的、象徴的でロマン性豊かな作風である。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4
		人物名	圓鏝勝三	圓鏝勝二 もよい。	2
		(2) 作風	木彫を基本に、陶、ブロンズなどの幅広い素材を用い、人物を中心に鳥獣魚を、西洋的写実から抽象の傾向まで幅広い表現方法を用いて表した。心の内面を様々に主張する群像の Monument を多く残した。闊達で詩情豊かで軽快な作風である。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	4
	2	(1)	顔料と卵黄を混ぜたものを絵の具として描く技法。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各4×4
		(2)	銅板や樹脂板などの板材に、傷をつけてインクをつめ、上から圧をかけて刷る凹版画の技法。		
		(3)	淡い墨の画面が乾燥しないうちに濃い墨を加える。または、濃い墨で描いた後に淡い墨で描き、自然のじみに任せて複雑な墨色の効果を生み出す技法。		
		(4)	建物や物体、空間などに対して映像を映し出す表現。		
	3	(1) b			各2×3
		(2) e			
		(3) f			
	2	1	・現実にあるものの形や大きさや性質を変えている。 ・存在しないものと空間を組み合わせている。 ・身近にある物と物を思いがけない組み合わせにしている。	2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各4×2
2		参考作品 1で取り上げたダリの作品に見られない表現の工夫を取り入れ、描いている作品。 表現の工夫 ・材料や技法を使って偶然できた色や形を生かす。 ・具体物にもう1つの意味をもたせる。 ・場所を変え、異質なものを組み合わせる。 ・大きさを置き換える。	問いを正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。 参考作品と説明が対応しているものだけを正答とする。	35	

43

高等学校芸術科（美術）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
3	1	<p>ヒント1 曲線が多用され、丸みを帯びている。</p> <p>ヒント2 動きが小さく、1つのかたまりから構成されている。</p> <p>ヒント3 左右均等でバランスがとれており、安定感がある。</p>	<p>それぞれのヒントの中に、空間、量感、動勢、質感、均衡等のいずれかの造形要素が入っていればよい。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていないよい。</p>	各5×3	43
	2	<p>理解させること</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞者に対して、彫刻の周りの空間や環境についても注目させることで、彫刻がその場を引き立てたり、その場の景観や環境の美しさを気付かせたりするなど、彫刻が風景とともに成り立っているということ。 今まで見慣れていた生活の空間が新鮮に感じられたり、周辺の住人が安らぎや潤いを感じたりすることができるなど、彫刻が設置されることによって得られる心情への効果があること。 待ち合わせ場所や遊び場として、街の新しい人々の触れ合いの場となることなど、彫刻がその地域を活性化させる効果があること。 <p>指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工的なものが人間と自然の両方に調和し、なおかつ造形感覚に照らして美しい環境をつくりだすにはどうしたらよいかといった視点を基に考えさせる。 形や色彩、材料などの造形が人間にとってどのように機能するのかを再認識させる。 彫刻を直接見たり、調べたり、新たな視点から捉えさせたりするなどして課題を見付け、環境の中の彫刻の働きを実感的に学習させる。 人々の生活、社会・環境などを観察したり調べたりして、人々の生活、社会・環境における彫刻の働きについて考察させる。 			
4	1	<p>生徒の自由な見方や感じ方を大切に、表現の独自性や創造性、表現の意図に応じた素材の生かし方、表現の技術やその効果、作品の背景にある生活や社会、時代などを分析的に、あるいは、総合的に捉えさせる。</p>	<p>内容を正しくとらえていけば、表現は異なっていないよい。</p> <p>内容を正しくとらえていけば、表現は異なっていないよい。</p>	16	32
	2	<p>感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現に関する作品を鑑賞し、作者が感じ取ったことや考えたことなどから、どのように主題を生成し、心豊かな発想をしたのかを考えることが、生徒が実際に表現する際に発想したり構想を練ったりする力を高めることになるから。</p>		16	
5		<p>次の点に留意して描いていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 形を正確に捉えて表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって立体感を表現していること。 ○ 鉛筆の濃淡によって質感を表現していること。 ○ 画面にバランスよく構成していること。 		各12×4	48